



## 滄州市街

河北省の東南部に位置し、東は渤海、北は天津市に接する滄州市は北京から高速鉄道で約 50 分の距離にあり、中国北方における陸海交通の要衝です。国指定の経済開放区および沿海開放都市として石油化学工業が発達し、ナツメや梨の栽培が盛んなことでも有名です。古くから武術の郷、雑技の郷として知られており、秦の始皇帝時代、不老不死の薬を求めて東方に旅立った徐福はここから出航したとの伝説も残っています。市のシンボルとなっている「鉄獅子」は 953 年に鑄造された重さ約 40 トンの鉄製の獅子像で、現存する世界最古・最大級の鉄製工芸品です。



世界の地域から

## 河北省滄州市（中国）



写真提供：滄州市人民政府外事弁公室

### 黄驊港（こうかこう）

中国第 2 位の石炭輸出港である黄驊港は、中国中西部地区の海の玄関口の役割を担っており、宋や金の時代から海上シルクロードの北の起点とされてきました。現在、20 万トン級の船舶が通航可能な航路と 1 万トン級以上の船舶の停泊場 33 か所を備えています。国家プロジェクトとして開発が進む河北省雄安新区の最寄港でもあることから、対外開放の拠点として渤海沿岸の港湾の中で最も成長が期待される港です。